この建築材料等品質性能表は、特記仕様書記載の材料の品質、性能、試験方法を詳細に示したものである。

章　項目　品質　性能　試験方法

6 内装改修工事

自動ﾄﾞｱ開閉装置

〈自動ﾄﾞｱ開閉装置〉
(品質・性能)
駆動装置・制御装置

項目	品質・性能
作動電圧	定格電圧に対し90～110%の電圧で作動に異常がない
適用使用周囲温度(℃)	-10℃～40℃
電動機の焼損防止措置	電動機にｻｰﾏﾙﾌﾟﾛﾃｸﾀｰを内蔵、又は制御装置に保護回路を設置

検出装置(本体ｾﾝｻｰ、補助ｾﾝｻｰ)

項目	品質・性能			
作動電圧範囲	定格電圧90%～110%で作動させた時に異常がないこと。			
出力接点容量	有接点		無接点	
	AC100V	0.3A以上(抵抗負荷)	DC50V	0.1A以上(抵抗負荷)
	DC30V	0.3A以上(抵抗負荷)	-	-
	DC50V	0.1A以上(抵抗負荷)	-	-
応答時間(秒)	0.3以下			
検出範囲	試験により確実に作動すること。			
適用使用周囲温度(℃)	-10℃～40℃			

(試験方法)
(1)応答時間
0.3m/secの早さで移動している標準被試験体が検出範囲に入ってから、ON信号を出力するまでの時間を測定する。
(2)検出範囲
a.ｺﾞﾑﾏｯﾄｽｲｯﾁは、直径100mmの鋼製円柱(質量10kg)を不感部を除く全面に静かに置いたとき、確実に作動すること。
b.上部取り付け形の動体検出形は、150mm/secの速度で、検出範囲に近づけたとき確実に作動すること。
c.上部取り付け形の静止体検出形は、50mm/secの速度で、検出範囲に近づけたとき、確実に作動すること。
注)取り付け位置などにより、上記によりがたい場合は、当該ｾﾝｻｰに適した方法の試験を行い確実に作動することを確認する。
〈試験条件〉
(1)無目付ｾﾝｻｰ又は天井付ｾﾝｻｰの検出体及び検出範囲試験は、JIS A1551の7.6による。
(2)熱線ｽｲｯﾁ……被検出体表面温度、33±2℃とし、周辺温度は、被検出体表面温度より5℃±2℃低い値とする。
(3)超音波ｽｲｯﾁ…温度-10℃、湿度75%、風速10m/secとする。
(4)試験室の状態は、JIS Z 8703「試験場所の標準状態」の常温、常湿による。
(3)耐放射ﾉｲｽﾞ
放射無線周波電磁界ｲﾐｭﾆﾃｨ試験とする。(ただし、電界強度は一定とする。)

自閉式上吊り引戸装置

〈自閉式上吊り引戸装置〉
(試験方法)
(1)耐久性(開閉繰り返し)試験
閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはﾒｰｶｰの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
(2)耐衝撃性試験
落下高さ17cmにて、ﾄﾞｱの中央部にﾄﾞｱが外れる方向に衝撃を与える。
耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
(3)気密性能試験
JIS A1516「建具の気密性試験方法」による。

モルタル塗り

〈防水剤〉
(品質・性能)

防水剤の種別	建築用のﾓﾙﾀﾙに用いるｾﾒﾝﾄ防水剤
混合割合	ｾﾒﾝﾄ重量の5%以下
凝結及び安定性	(凝結) JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」の8の規定によって行う。 凝結時間　始発：1時間以上　終結：10時間以内 (安定性) JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」の9の規定によって行い、収縮性、膨張性のひび割れ及びそりについて観察する。
曲げ及び圧縮強度比	70%以上
吸水比	95%以下
透水比	80%以下

(試験方法)
JIS A1404「建築用ｾﾒﾝﾄ防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、294.0kPaとし1時間行う。

タイル張り

〈既製調合ﾓﾙﾀﾙ〉
(品質・性能)

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1.8kg/l以上
接着強さ	標準時	0.6N/mm^2以上
	温冷繰り返し後	0.4N/mm^2以上
長さ変化率		0.2%以下
曲げ強さ		4.0N/mm^2以上

(試験方法)
(1)試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
(2)保水率の試験方法
JIS R3202「ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ及び磨き板ｶﾞﾗｽ」に規定するみがき板ｶﾞﾗｽ(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製ﾘﾝｸﾞ型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を設置し、(1)で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。その後、直ちにﾘﾝｸﾞ型わく上部にｶﾞﾗｽ板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをﾉｷﾞｽを用いて次式により保水率を求める。
保水率=50/平均値×100　(注)50:ﾘﾝｸﾞ型わくの内径(mm)
(3)単位容積質量の試験方法
JIS A1171「ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの試験方法」に準ずる。
(4)接着強さ(標準時)の試験方法
イ)適用ﾀｲﾙが「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」の場合
(試験体の作製)JIS A5371「ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をｻﾝﾄﾞﾍﾟｰﾊﾟｰを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「陶磁器質ﾀｲﾙ」に規定する外装壁ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙで乾式成形のⅠ類(施ゆう)「50角ﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ(外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。(試験方法)JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をｸﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰを用いて、ﾀｲﾙ周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、ｴﾎﾟｷｼ樹脂接着剤で鋼製ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm^2以上)
ﾛ)適用ﾀｲﾙが「小口ﾀｲﾙ・二丁掛けﾀｲﾙ」の場合
(試験体の作製)JIS A5371「ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をｻﾝﾄﾞﾍﾟｰﾊﾟｰを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A5209「陶磁器質ﾀｲﾙ」に規定する外装壁ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙで乾式成形のⅠ類(施ゆう)「小口ﾀｲﾙ108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」の場合と同様に行う。
(5)接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法
(試験体の作製)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」及び「小口ﾀｲﾙ・二丁掛ﾀｲﾙ」とも、各々(4)接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。
(温冷繰返し試験)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」及び「小口ﾀｲﾙ・二丁掛ﾀｲﾙ」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1ｻｲｸﾙとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
(温冷繰返し後の接着強さ試験方法)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」及び「小口ﾀｲﾙ・二丁掛ﾀｲﾙ」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4[N/mm^2]以上)
(6)長さ変化率の試験方法
JIS A6203「ｾﾒﾝﾄ混和用ﾎﾟﾘﾏｰﾃﾞｨｽﾊﾟｰｼﾞｮﾝ及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
(7)曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。

〈既製調合目地材〉
(品質・性能)

項目	品質・性能
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下(収縮)
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.8kg/l以上

(試験方法)
(1)試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
(2)試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2㌔の試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投函し3分間練り混ぜて資料とする。
(3)保水性(ろ紙法)
JIS R3202「ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ及び磨板ｶﾞﾗｽ」に規定する磨き板ｶﾞﾗｽ(縦200mm、横200mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径18.5mm)をのせ、その中央部に真鍮製ﾘﾝｸﾞ型枠(内径50mm、厚さ3mm)を設置し、2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む、その後、直ちにﾘﾝｸﾞ型枠上部にｶﾞﾗｽ板を当て上下逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみだした水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをﾉｷﾞｽを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率(%)=50/平均値×100　注)50:ﾘﾝｸﾞ型わくの内径(mm)
(4)単位容積質量
(2)で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
(5)長さ変化率
(2)で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
(6)吸水量
吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

9 環境配慮改修工事

断熱・防露改修工事

〈現場発泡断熱材〉
(品質・性能)

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること (1)JIS A1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2)法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(ｺｰﾝｶﾛﾘｰ試験)に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1)総発熱量が8MJ/m^2以下であること。 (2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3)最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m^2を超えないこと。

(試験方法)
(1)原液試験(原液粘土試験)
JIS K7117-1「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ-液状、乳濁状又は分散状の樹脂-ﾌﾞﾙｯｸﾌｨｰﾙﾄﾞ形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
(2)発砲品試験
1)試料の作成は、JIS A9526「建築物断熱用吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ」の6.2.1による。
2)試料の状態調節は、JIS A9526の6.2.2による。また、試験片の作成はJIS A9526の6.2.3による。
3)試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A9526の6.2.4による。
(3)圧縮強さ試験
JIS A9526の6.2.5により、測定はJIS K7220「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｽ-圧縮特性の求め方」による。
(4)熱伝導率試験
JIS A9526の6.2.6により、JIS A1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第1部:保護熱板法(GHP法)」又はJIS A1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第2部:熱流計法(HFM法)」によって、平均温度(23±2)℃、高温板と低温板の温度差(25±5)℃で熱伝導を測定する。
(5)接着強さ試験
JIS A9526の6.2.7による。
(6)透湿率試験
JIS A9526の6.2.8により、測定はJIS A1324「建築材料の透湿性測定方法」又はJIS K7225「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ-水蒸気透過性の求め方」による
(7)難燃性の表面加熱試験
JIS A1321に規定する試験方法に準じる。
(8)発熱性試験
建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

屋上緑化改修工事

〈屋上緑化軽量ｼｽﾃﾑ〉
(品質・性能)

項目	品質・性能
透水層	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
排水層等構成材の主要材質	(保水層を有する場合は、保水層共)
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240l/m^2-h以上
耐荷重性能	一般ﾒﾝﾃﾅﾝｽ時の上部歩行に際し破壊しないこと。
排水層の許容圧縮強度	3.0×10^4N/m^2以上の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。保水層を有する場合は保水層共)
耐根層	重ね合わせ部を含め、ｻｻﾞｻﾞ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
防水層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。但し、防水層が防水層保護層と同等の性能を有すると認められる場合は省略することができるものとする。

(試験方法)
(1)排水基盤の耐荷重性能
(イ)3.0×10^4(N/m^2)の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み(%)を測定する(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)
(ﾛ)試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にｾｯﾄした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。

20 ユニット及びその他工事

移動間仕切

〈移動間仕切〉
(品質・性能及び試験方法)
(1)ﾊﾟﾈﾙ(表面材、心材、ﾌﾚｰﾑ材、幅木、笠木及び補強材)及びﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙは、JIS A6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。
(2)外観は、JIS A6512「可動間仕切」の5.a)～c)による。
(3)ﾊﾟﾈﾙの操作性
ﾊﾟﾈﾙ操作の初動力は98N以下とする。
(4)ﾊﾟﾈﾙ圧接装置の耐久性
ﾊﾟﾈﾙ圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験において異常のないものとする。
(5)耐衝撃性
ﾊﾟﾈﾙ圧接装置の耐久性試験後、質量50Kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれを生じても圧接装置を復旧し、走行可能なものとする。
(6)ﾚｰﾙの耐久性
ﾚｰﾙは普通ﾊﾟﾈﾙで吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、その通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。
(7)吊り車の耐久性
吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、ﾚｰﾙに大きな変形がないものとする。
(8)吊りﾎﾞﾙﾄの引張り強度
一本にかかる荷重の15倍以上の引張り強度があるものとする。
(9)遮音性能
遮音性試験はJIS A6512「可動間仕切」8.2遮音性試験に準ずる。
(10)化学物質を放散する資材
JIS A6512「可動間仕切」7材料による。

トイレブース

〈ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ〉
(品質・性能)
(1)ﾊﾟﾈﾙ

項目	品質・性能
表面材	ﾒﾗﾐﾝ樹脂系、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板又はﾒﾗﾐﾝ樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、ﾒﾗﾐﾝ樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、ﾒﾗﾐﾝ樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材 ｴｯｼﾞ材	JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。
小口	防水処理を施す。

(2)構造金物

項目	品質・性能
笠木 脚部(脚具、幅木) 壁見切り金物 頭つなぎ等	JIS A6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、耐蝕性のあるものとする。 頭つなぎ等で使用するﾋﾞｽ類の材質はｽﾃﾝﾚｽ製とする。

(3)付属金物

項目	品質・性能
ﾋﾝｼﾞ	耐蝕性のあるものとする。
ﾗｯﾁｾｯﾄ	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のｺﾞﾑは、使用に十分耐える材質であるものとする。

(4)外観は、JIS A6512「可動間仕切」の5.b)による。
(5)ﾊﾟﾈﾙ表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	品質・性能		
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性	開閉耐久性
ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板及び ﾒﾗﾐﾝ樹脂系単一材	JIS K6902「熱硬化性樹脂高圧化粧板試験方法」15.2 B法の表6に示された耐汚染性のうち材料番号3.6.7.8.9.10.17.の試験結果の判定は、「変化なし」であるものとする。また、材料番号1.2.4.5.11.12.13.14.15.18.は、「変化なし又は軽微な変化」であるものとする。又は、これらと同等以上の性能を有するものであるものとする。	―	JIS A4702「ﾄﾞｱｾｯﾄ」9.4開閉繰り返し試験によるｽｲﾝｸﾞﾄﾞｱ(開閉回数10万回)を満足すること及び試験終了時点で構造金物、固定金具等に緩みのないこと。
低圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板	ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系加工化粧合板、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧MDF、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄのいずれかの品質に適合していること。		
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の農林規格」第8条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の農林規格」第8条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。	
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧MDF	JIS A5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。		
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄ	JIS A5908「ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄ」の表11の規定に適合していること。		

(試験方法)
(1)ﾋﾝｼﾞは、JIS A1510-2「建築用ﾄﾞｱ金物の試験方法-第2部:ﾄﾞｱ用金物」に規定する試験による。
(2)戸当りの衝撃試験は、JIS A1510-2に規定する試験による。

天井点検口

〈天井点検口〉
(品質・性能)
内外枠の材質　ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
JIS H4100　A6063S又は同等の性能を有するもの
表面処理 陽極酸化皮膜JIS H8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
(外部に用いる場合は、JIS H8602のB種又は同等以上の性能を有するもの)
内枠及び外枠のｺｰﾅｰﾋﾞｰｽ
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
枠の寸法許容差　±0.5mm
外枠と内枠のｸﾘｱﾗﾝｽ　片側2.0mm以内

(試験方法)
内蓋(内枠)の繰り返し開閉試験
(1)試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付け用ﾁｬﾝﾈﾙに直接留付ける方式(天井ﾎﾞｰﾄﾞなどの仕上げ材を挟んで固定しない方式)とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各ﾒｰｶｰ仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ厚さ9.5mm(JIS A6901「せっこうﾎﾞｰﾄﾞ製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性2級以上)二重張りとする。
(2)試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
(3)測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。
(4)試験結果の判定は、下記による。
①100～300回　内蓋の垂れ下がり　0.5mm以内
②その他使用上において支障をきたす異常がないこと。

床点検口

〈床点検口〉
(品質・性能)
以下のもの又は同等のものとする

部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	ｱﾙﾐﾆｳﾑ及び ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材	JIS H4100のA6063S (表面処理)JIS H8602のB種又はJIS H8601のAA15	
	ｽﾃﾝﾚｽ鋼製	JIS G4305のSUS304, SUS430J1L (表面処理)HL又は2B仕上げ程度	JIS G4305のSUS430 (表面処理)HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	―	JIS G3313の類にﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付塗装、一般用さび止めﾍﾟｲﾝﾄ(JIS K 5612)の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G5501のFC150, FC200	
目地材	黄銅	JIS H3100　C2600, C2720, C2801 JIS H3250　C3602, C3604	
	ｽﾃﾝﾚｽ	JIS G4305, JIS G4308 SUS304又はSUS430J1L	
底板材 ｺｰﾅｰ ﾋﾞｰｽ 底板補強材	ｽﾃﾝﾚｽ鋼板	JIS G4305, JIS G4308 SUS304, SUS430J1L	JIS G4305 SUS430
	ｱﾙﾐﾆｳﾑ板	JIS H4000(A1100P H24) 表面処理:陽極酸化塗装複合被膜 JIS H8601(AA15) JIS H8602(B)	―
	鋼材	―	JIS G3313の類にﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付塗装、一般用さび止めﾍﾟｲﾝﾄ(JIS K 5612)の防錆処理を行ったもの
ﾊﾟｯｷﾝ材		塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｺﾞﾑ、軟質塩化ﾋﾞﾆﾙ、ｸﾛﾛﾌﾟﾚﾝ、ｽﾁﾚﾝﾌﾞﾀﾞｰ、ｴﾁﾚﾝﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ等枠の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの	
ｱﾝｶｰ材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出形材・合金鋳鉄製、ｽﾃﾝﾚｽ鋳鋼品、ｽﾃﾝﾚｽ製等、ｽﾃﾝﾚｽ鋼材、ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出形材などで被覆した、合製樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
鍵		黄銅製、ｽﾃﾝﾚｽ製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ﾊﾝﾄﾞﾙ式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000において残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内であること 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること	

受け枠寸法の許容差　±0.5mm
蓋付寸法の許容差　±0.5mm
受け枠と蓋枠のｸﾘｱﾗﾝｽ　片側2.0mm以内

(試験方法)
耐荷重試験
試験体は、貼物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊(終局荷重)まで加圧する。
測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の以上について1,000Nまで3回繰り返す。